

効果的かつ効率的ながん専門医の育成方法に関する研究

分担研究者 永田 靖 京都大学 助教授

研究要旨 放射線治療の均てん化に関連して、国内の実態を調査した。放射線治療の均てん化を妨げている原因は1. 放射線腫瘍医の不足、2. 放射線治療施設の分散、3. 医学物理士や品質管理士の不在、であると推測された。今後取るべき対策としては、1. 放射線腫瘍学講座の設置、2. 放射線治療施設のセンター化、3. 医学物理士や品質管理士の定員化が重要であろう。放射線治療施設が均てん化することにより、より国民の多くが放射線治療を受けることが可能になる。

分担研究者 永田 靖  
京都大学大学院医学研究科  
放射線医学講座  
助教授

物理士が常勤する。しかしわが国においては、従来よりその職種が制度化されず臨床現場に定員化されていなかった。しかし、近年頻発する過剰線量照射事故の反省より放射線治療品質管理士が実現した。放射線治療の品質を支える品質管理士の現状と臨床現場での配置動向についても調査した。

日本高精度放射線外部照射研究会では2004年に1度全国強度変調放射線治療実態調査を行っている。本研究では2年経過した2006年秋に再度全国調査を行い、国内の強度放射線治療施設の現状と地域間格差について解析した。この国内の現状調査を行うことによって、放射線治療の均てん化に必要な項目を解析した。

A. 研究目的

放射線治療の施設数や医師数、装置数には地域間格差が見られ、高いレベルの放射線治療(強度変調放射線治療や体幹部定位照射、等)が受けられない地域が存在する。本研究の目的は、国内の放射線治療をとりまく現状を調査し、放射線腫瘍医や品質管理士等の充実を図り、放射線治療の均てん化をはかることである。

B. 研究方法

日本放射線腫瘍学会では2年に1回の頻度で全国放射線治療施設構造調査を行っている。本研究では2003年の全国調査結果を用いて国内の放射線治療施設の現状と地域間格差について解析した。

また国内の放射線腫瘍医の人数は、絶対的にも相対的にも欧米より少ない。これは、その人材育成源である放射線腫瘍学講座の不足とも関連している。そのため国内の放射線腫瘍学講座の設置状況について、国内80医科大学および大学医学部の実態調査について解析した。またその結果を米国と比較した。

一方で欧米においては、放射線治療の臨床現場にその治療精度と治療装置の品質保証とを行う医学

C. 研究結果

2003年構造調査では、国内高エネルギー放射線治療施設総数は726施設で、合計861台の照射装置が稼動していた。放射線治療新患者数は15.0万人で、放射線治療担当医は941名が常勤し、日本放射線腫瘍学会認定医は369人に留まっている。また常勤放射線腫瘍医の欠員は調査時の時点において132名と申告された。

また、その地域間格差についても問題である。つまり施設数では東京都が最大72施設であることと比較し山梨県では3施設であり、高エネルギー装置1台あたりの人口数は山梨県が最大の292,000人で、最低は鳥取県の87,000人であった。居住人口あたりの放射線治療新患者数は東京と鳥取で1.7人/1000人と多く、福島で

2005.

2. Takayama K, Nagata Y, Negoro Y, et al.  
Treatment planning of stereotactic radiotherapy for lung cancer. Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys. 61:5, 1565-1571, 2005.

3. Yamauchi C, Mitsumori M, Nagata Y, et al.  
Bilateral breast-conserving therapy for bilateral breast cancer. Results and consideration of radiation technique.  
Breast Cancer. 12:135-139.2005

4. Nagata Y, Matsuo Y, Takayama K, et al. Current status of stereotactic radiosurgery for lung cancer. Int. J. of Clinical Oncology. 12:3-7, 2007.

5. Kamino Y, Takayama K, Mizowaki T, Nagata Y, Hiraoka M, et al. Development of a four-dimensional image-guided radiotherapy system with a gimbaled X-ray head. IJROBP 66:271-278,2006.

6. Matsuo Y, Nagata Y, et al. Interinstitutional variations in planning for stereotactic body radiation therapy for lung cancer. IJROBP (In press)

2. 学会発表  
該当なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得  
該当なし

2. 実用新案登録  
該当なし

3. その他  
該当なし

2005.

2. Takayama K, Nagata Y, Negoro Y, et al.

Treatment planning of stereotactic radiotherapy for lung cancer. Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys. 61:5, 1565-1571, 2005.

3. Yamauchi C, Mitsumori M, Nagata Y, et al.

Bilateral breast-conserving therapy for bilateral breast cancer. Results and consideration of radiation technique.

Breast Cancer. 12:135-139.2005

4. Nagata Y, Matsuo Y, Takayama K, et al. Current

status of stereotactic radiosurgery for lung cancer.

Int. J. of Clinical Oncology. 12:3-7, 2007.

5. Kamino Y, Takayama K, Mizowaki T, Nagata Y,

Hiraoka M, et al. Development of a four-dimensional

image-guided radiotherapy system with a gimbaled

X-ray head. IJROBP 66:271-278,2006.

6. Matsuo Y, Nagata Y, et al. Interinstitutional

variations in planning for stereotactic body radiation

therapy for lung cancer. IJROBP (In press)

## 2. 学会発表

該当なし

## H. 知的財産権の出願・登録状況

### 1. 特許取得

該当なし

### 2. 実用新案登録

該当なし

### 3. その他

該当なし

厚生労働科学研究費補助金(がん臨床研究事業)  
(総合)研究報告書

病理診断の均てん化、および病理専門医の育成

分担研究者 松野 吉宏 国立がんセンターがん対策情報センター 室長

研究要旨 病理診断の均てん化、および病理専門医の育成に資するため、病理診断コンサルテーションの推進と精度管理体系化、初期臨床研修医および医学部学生を対象とする研修指導などを行い、さらにがん診療に従事する専門医育成のためのカリキュラム案作成に病理学的側面から参画した。今後、関連学会とも密な連携をはかり、専門性の高い各臓器がんの病理診断精度を確保する体制や環境を整備すること、および病理医を含めがん診療に従事する専門医の業務を魅力あるものとし、これを目指す人材を確保し育成する活動を継続的に実行していく必要がある。

病理診断の効率的な均てん化を実現するための基盤整備を進めた。日本病理学会と協調してコンサルテーションシステムの、同症例の教育資源化を提案し実現した。教育的標本ライブラリーの整備をすすめ、するなど、人材・技能育成に関わる資源提供体制を整備した。

分担研究者 松野 吉宏  
国立がんセンター  
がん対策情報センター  
室長

4. がん診療に従事する専門医育成のためのカリキュラム案作成に参画した。

(倫理面への配慮)

本研究では、研究参加に関する患者から本研究に特化したインフォームド・コンセントは得ていないが、診療目的で得られた標本のみを用い、また外部コンサルテーション、集積、評価、発表において患者個人識別情報は完全にマスクされる。加えて、外部コンサルテーションや標本の教育的利用については日本病理学会倫理委員会および関連医療機関の指針を遵守する。

#### A. 研究目的

がん診療の質的均てん化の鍵を握る病理診断の効率的な均てん化を実現するため、本研究は、専門性の高い各臓器がんの病理診断精度を確保する体制の整備、種々の媒体を用いた情報発信による診断規準の標準化・明確化や技能向上、および病理医を含めがん診療に従事する専門医を効果的かつ効率的育成など、施設間病理診断較差の体系的解消に資する基盤整備を行う。

#### B. 研究方法

1. がんに関する病理診断コンサルテーションの推進と質的向上を図るための方策を検討した。
2. がんの病理専門医を目指す若手医師を確保するため、初期臨床研修医および医学部学生を対象に国立がんセンター中央病院が臨床検査部の協力を得て開催した「病理細胞検査室見学コース」に協力し、研修指導を行った。
3. 腫瘍病理標本ライブラリーの構築と公開  
教育的症例の標本を集積した病理標本ライブラリーの構築を継続的に進めている。

#### C. 研究結果

##### 1. がんの病理診断に関するコンサルテーションの推進と質的向上

日本病理学会医療業務委員会コンサルテーション小委員会に委員として参画し、全国の病理専門医を依頼者とするコンサルテーション業務の運営に関する諸問題を検討した。コンサルタント間の診断標準化・精度管理のため、各専門領域の病理専門医からなる臓器病理診断チーム制導入を日本病理学会に提案し、平成17年4月より新たに組織された32の専門家チーム体制によるコンサルテーション事業が開始された。チーム内コンサルタント相互の診断基準の確認や情報共有、教育的症

例の学会員への供覧推薦を目的に「臓器別精度管理ミーティング」が年1～2回開催されることとなり、第1回は同年11月16日開催された。しかし、チームメンバーの時間・経費等の制約が多く、今年度は少数のチームを除き十分に活動出来ていないことが判明した。そのほかの主な継続検討課題は、依頼元における意見報告書の取り扱い、コンサルタントの責任と謝礼、個人情報保護に関することであった。また、これとは別に第52回日本病理学会秋期特別総会(平成18年11月24日)においてコンサルテーション依頼症例を題材とした一般会員向けの教育講演を実施し、好評であった。

一方、平成18年10月1日より国立がんセンターがん対策情報センターにおいて開始されたがんの病理診断にコンサルテーション業務にも上記検討で蓄積したノウハウを採用し、円滑な運営をすすめることにより、また新たな取り組みについては共有を図ることにより全国規模でがんの病理診断の精度向上と均てん化に寄与している。

## 2. 初期臨床研修医および医学部学生を対象とする研修指導

がんの病理専門医を目指す若手医師を確保するため、初期臨床研修医および医学部学生を対象に国立がんセンター中央病院が臨床検査部の協力を得て開催した「病理細胞検査室見学コース」に協力し、がん医療における病理診断の役割や病理専門医の使命について講演を含む指導を行った。

## 3. 腫瘍病理標本ライブラリーの構築と公開

教育的症例の標本を集積した病理標本ライブラリーの構築を継続的に進めている。これまでに、種々の臓器がんにわたって主として中央病院症例の教育的症例・希少例を中心に、解説を付した画像資料を作成・収集した。併せて、いくつかの臓器がんで当院レジデント教育用に準備した標本の一部を複製し、院外にも公開の準備を進めた。

## 4. がん診療に従事する専門医育成のためのカリキュラム案作成への参画

病理医のみならず、がん診療の専門医となるために必

要なカリキュラム案作成に参画し、とくに専門医として修得しておくべきがんの病理学的知識・技能要件について提言を行った。

## D. 考察

病理診断への要求は高度に専門化してきていることから、各臓器がんの病理専門家へのコンサルテーションの増加は必須と考えられ、そのための物心両面にわたる環境整備は急務である。本研究により、病理診断の外部コンサルテーションの精度管理を体系化するモデルケースとして、病理学会と協調して臓器別ボード制の運用を開始できた。コンサルタント間の精度保証活動を実施することには一定の意義が見いだされることから、現状の問題点を踏まえて画像電子化技術なども併用しての運営を実現していく時期にあると考えられる。加えて、今後教育的資源を体系的に蓄積・提供する体制を全国の病理医の需要に応えるような運用とすることにより、教育的情報発信の拠点としての機能も十分発揮できれば、病理診断均てん化の推進が果たされると期待される。

がんの診断に専門性をもつ病理専門医の人材育成と技能知識の維持向上、さらにはその前段階である病理専門医を目指す若い医師を確保する活動などは、今年度まで行ってきた活動実績をふまえ、継続的に拡充していく必要がある。そのために病理専門医の業務を魅力あるものにする内部努力が必須である。

病理専門医から有益な情報を得て、これを診療に生かすことの出来る優れた臨床医を育成するために、また実現可能性に配慮し、病理学的側面からも専門医育成カリキュラムの定期的な見直しや拡充を図る必要がある。

## E. 結論

がんの診療水準の均てん化を推進するためには、関連学会とも密な連携をはかり、専門性の高い各臓器がんの病理診断精度を確保する体制や環境を整備すること、および病理医を含めがん診療に従事する専門医の業務を魅力あるものとし、これを目指す人材を確保し育成する活動を継続的に実行していく必要がある。

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

Miyagi-Maeshima A, Maeshima A, Asamura H, Matsuno Y. Histologic prognostic factors for small-sized squamous cell carcinomas of the peripheral lung. Lung Cancer 52: 53-58, 2006

Yonemori K, Tsuta K, Tateishi U, Uno H, Asamura H, Matsuno Y, Kusumoto M. Diagnostic accuracy of CT-guided percutaneous cutting needle biopsy for thymic tumours. Clin Radiol 61: 771-775, 2006

Tsushima Y, Suzuki K, Watanabe S, Kusumoto M, Tsuta K, Matsuno Y, Asamura H. Multiple lung adenocarcinomas showing ground-glass opacities on thoracic computed tomography. Ann Thorac Surg 82: 1508-1510, 2006

Tanimoto K, Sekiguchi N, Yokota Y, Kaneko A, Watanabe T, Miyagi-Maeshima A, Matsuno Y, Harada M, Tobinai K, Kobayashi Y. Fluorescence in situ hybridization (FISH) analysis of primary ocular adnexal MALT lymphoma. BMC Cancer 6: 249-257, 2006

Fugo K, Matsuno Y, Okamoto K, Kusumoto M, Maeshima A, Kaji M, Takabatake H, Kondo H, Moriyama N. Solitary capillary hemangioma of the lung: report of 2 resected cases detected by high-resolution CT. Am J Surg Pathol 30: 750-753, 2006

Kato Y, Tsuta K, Seki K, Miyagi-Maeshima A, Watanabe S, Suzuki K, Asamura H, Tsuchiya R, Matsuno Y. Immunohistochemical detection of GLUT-1 can discriminate between reactive mesothelium and malignant mesothelioma. Mod Pathol 20: 215-220, 2007

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 該当なし
2. 実用新案登録 該当なし
3. その他 該当なし

厚生労働科学研究費補助金

がん臨床研究事業

効果的かつ効率的ながん専門医の育成方法に関する研究

平成16年度～平成18年度  
研究成果の刊行に関する一覧表

## 研究成果の刊行に関する一覧表

平成16年4月から平成18年3月まで

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Ohe Y, Niho S, Kakinuma R, Kubota K, Ohmatsu H, Goto K, Nokihara H, Kunitoh H, Saijo N, Aono H, Watanabe K, Tango M, Yokoyama A, Nishiwaki Y.	A phase II study of cisplatin and docetaxel administered as 3 consecutive weekly infusions for advanced non-small cell lung cancer in elderly patients.	Ann Oncol	15	45-50	2004
Sekine I, Nokihara H, Horiike A, Yamamoto N, Kunitoh H, Ohe Y, Tamura T, Kodama T, Saijo N.	Phase I study of cisplatin analogue nedaplatin (254-S) and paclitaxel in patients with unresectable squamous cell carcinoma.	Br J Cancer	90	1125-1128	2004
Niho S, Ohe Y, Goto K, Ohmatsu H, Matsumoto T, Kubota K, Kakinuma R, Nishiwaki Y.	Randomized trial of oral versus intravenous antibiotics in low-risk febrile neutropenic patients with lung cancer.	Jpn J Clin Oncol	34	69-73	2004
Sekine I, Yamamoto N, Kunitoh H, Ohe Y, Tamura T, Kodama T, Saijo N.	Treatment of small cell lung cancer in the elderly based on a critical literature review of clinical trials.	Cancer Treat Rev	30	359-368	2004
Takano T, Ohe Y, Kusumoto M, Tateishi U, Yamamoto S, Nokihara H, Yamamoto N, Sekine I, Kunitoh H, Tamura T, Kodama T, Saijo N.	Risk factors for interstitial lung disease and predictive factors for tumor response in patients with advanced non-small cell lung cancer treated with gefitinib.	Lung Cancer	45	93-104	2004
Minami H, Ohe Y, Niho S, Goto K, Ohmatsu H, Kubota K, Kakinuma R, Nishiwaki Y, Nokihara H, Sekine I, Saijo N, Hanada K, Ogata H.	Comparison of pharmacokinetics and pharmacodynamics of docetaxel and Cisplatin in elderly and non-elderly patients: why is toxicity increased in elderly patients?	J Clin Oncol	22	2901-2908	2004
Goto K, Sekine I, Nishiwaki Y, Kakinuma R, Kubota K, Matsumoto T, Ohmatsu H, Niho S, Kodama T, Shinkai T, Tamura T, Ohe Y, Kunitoh H, Yamamoto N, Nokihara H, Yoshida K, Sugiura T, Matsui K, Saijo N	Multi-institutional phase II trial of irinotecan, cisplatin, and etoposide for sensitive relapsed small-cell lung cancer.	Br J Cancer	94	659-665	2004
Sekine I, Noda K, Oshita F, Yamada K, Tanaka M, Yamashita K, Nokihara H, Yamamoto N, Kunitoh H, Ohe Y, Tamura T, Kodama T, Sumi M, Saijo N	Phase I study of cisplatin, vinorelbine, and concurrent thoracic radiotherapy for unresectable stage III non-small cell lung cancer.	Cancer Sci	95	691-695	2004
Ohe Y.	Chemoradiotherapy for lung cancer: current status and perspectives.	Int J Clin Oncol	9	435-443	2004
Ohe Y.	Negoro S, Matsui K, Nakagawa K, Sugiura T, Takada Y, Nishiwaki Y, Yokota S, Kawahara M, Saijo N, Fukuoka M, Ariyoshi Y. Phase I-II Study of Amrubicin and Cisplatin in Previously Untreated Patients with Extensive-Stage Small-Cell Lung Cancer.	Ann Oncol	16	430-436	2004
Yamamoto N, Tamura T, Murakami H, Shimoyama T, Nokihara H, Ueda Y, Sekine I, Kunitoh H, Ohe Y, Kodama T, Shimizu M, Nishio K, Ishizuka N, Saijo N.	Randomized Pharmacokinetic and Pharmacodynamic Study of Docetaxel: Dosing Based on Body-Surface Area Compared With Individualized Dosing Based on Cytochrome P450 Activity Estimated Using a Urinary Metabolite of Exogenous Cortisol.	J Clin Oncol	23	1061-1069	2005



Ishikura S, <u>Ohe Y</u> , Nihei K, Kubota K, Kakinuma R, Ohmatsu H, Goto K, Niho S, Nishiwaki Y, Ogino T.	A phase II study of hyperfractionated accelerated radiotherapy (HART) after induction cisplatin (CDDP) and vinorelbine (VNR) for stage III Non-small-cell lung cancer (NSCLC).	Int J Radiat Oncol Biol Phys	61	1117-1122	2005
Hichiya H, Tanaka-Kagawa T, Soyama A, Jinno H, Koyano S, Katori N, Matsushima E, Uchiyama S, Tokunaga H, Kimura H, Minami N, Katoh M, Sugai K, Goto YI, Tamura T, Yamamoto N, Ohe Y, Kunitoh H, Nokihara H, Yoshida T, Minami H, Saijo N, Ando M, Ozawa S, Sait	Functional Characterization of Five Novel CYP2C8 Variants, G171S, R186X, R186G, K247R and K383N, Found in a Japanese Population.	Drug Metab Dispos		(in press)	2005
西條 長宏、福岡 正博、原田 実根、大江裕一郎	臨床腫瘍専門医制度	Cancer Frontier	6	6-12	2004
加藤晃史、大江裕一郎	肺がん	今月の治療	12	63-65	2004
貫和敏博、大江裕一郎、工藤翔二、曾根三郎	肺癌治療におけるgefitinib(イレッサ)の臨床的有用性と問題点.	呼吸	23	98-109	2004
加藤晃史、大江裕一郎.	肺癌の大規模臨床試験とエビデンス	最新医学	59	178-189	2004
中山 俊、大江裕一郎	III期非小細胞肺癌の治療選択.	Lung Cancer Today 2004	春号	10-12	2004
西條長宏、大津 敦、上岡 博、大江裕一郎	がんの外來化学療法	MEDICO	35	263-272	2004
加藤晃史、大江裕一郎	日本における大規模比較臨床試験.	治療学	38	657-661	2004
高野利実、大江裕一郎.	ゲフィチニブの臨床:EBMを求める今後の臨床試験	現代医療	36	2089-2094	2004
Takahashi, T., <u>Sasaki, T.</u> , et al.,	Nonmyeloablative allogeneic stem cell transplantation for patients with unresectable pancreatic cancer	Pancreas	28	65-69	2004
佐々木常雄	再発・進行胃癌に対する新しい多剤併用療法 LV/5-FUを含む胃癌の多剤併用療法	癌と化学療法	31	1952-1956	2004
佐々木常雄	胃癌治療ガイドライン改訂について	癌と化学療法	31	1947-1951	2004
佐々木常雄	第三章 胃癌の治療 5.化学療法(1)総論	臨床消化器内科	19	904-912	2004
佐々木常雄	胃癌対策最前線 ガイドラインからみた胃癌治療対策	Frontiers in Gastroenterology	9	42-47	2004
佐々木常雄	胃癌へのアプローチ その2 胃癌治療ガイドライン その有用性と問題点・最新の治療法をめざして	Medical Practice	21	14-21	2004
佐々木常雄	エビデンスとガイドライン 胃癌治療のガイドライン・改訂版について	最新医学	59	210-218	2004
Araki K, Wang B, Miyashita K, Cui Q, Ohno S, Baba H, Zhang RG, Sugimachi K, <u>Maehara Y</u> , Oda S.	Frequent loss of heterozygosity but rare microsatellite instability in oesophageal cancer in Japanese and Chinese patients.	Oncology	67(2)	151-158	2004
Takeuchi H, Tsuji K, Ueo H, Kano T, <u>Maehara Y</u> .	Clinicopathological feature and long-term prognosis of apocrine carcinoma of the breast in Japanese women.	Breast Cancer Res Treat	88(1)	49-54	2004
Osoegawa A, Yoshino I, Tanaka S, Sugio K, Kameyama T, Yamaguchi M, <u>Maehara Y</u> .	Regulation of p27 by S-phase kinase-associated protein 2 is associated with aggressiveness in non-small-cell lung cancer.	J Clin Oncol	22(20)	4165-73	2004
Yamamoto M, Baba H, Kakeji Y, Endo K, Ikeda Y, Toh Y, Kohnoe S, Okamura T, <u>Maehara Y</u> .	Prognostic significance of tumor markers in peritoneal lavage in advanced gastric cancer.	Oncology	67(1)	19-26	2004

Maehara S, Tanaka S, Shimada M, Shirabe K, Saito Y, Takahashi K, Maehara Y.	Selenoprotein P, as a predictor for evaluating gemcitabine resistance in human pancreatic cancer cells.	Int J Cancer	112(2)	184-9	2004
Yoshino I, Yamaguchi M, Okamoto T, Ushijima C, Fukuyama Y, Ichinose Y, Maehara Y.	Multimodal treatment for resectable epithelial type malignant pleural mesothelioma.	World J Surg Oncol	2(1)	11	2004
Kimura Y, Oda S, Egashira A, Kakeji Y, Baba H, Nakabeppu Y, Maehara Y.	A variant form of hMTH1, a human homologue of the E coli mutT gene, correlates with somatic mutation in the p53 tumour suppressor gene in gastric cancer patients.	J Med Genet	41(5)	e57	2004
Itoh S, Maeda T, Shimada M, Aishima S, Shirabe K, Tanaka S, Maehara Y.	Role of expression of focal adhesion kinase in progression of hepatocellular carcinoma.	Clin Cancer Res	10(8)	2812-2817	2004
Maruyama R, Sugio K, Yoshino I, Maehara Y, Gazdar AF.	Hypermethylation of FHIT as a prognostic marker in nonsmall cell lung carcinoma.	Cancer	100(7)	1472-1477	2004
Shirabe K, Shimada M, Tsujita E, Aishima S, Maehara S, Tanaka S, Takenaka K, Maehara Y.	Prognostic factors in node-negative intrahepatic cholangiocarcinoma with special reference to angiogenesis.	Am J Surg	187(4)	538-542	2004
Wu, X. X., O. Ogawa, Kakehi Y	Sensitization of human renal cell carcinoma cell lines to TRAIL-induced apoptosis by anthracyclines.	Int J Urol	11(3)	164-170	2004
Taoka R, Tsukuda F, Ishikawa M, Haba R, Kakehi Y.	Association of prostatic inflammation with down-regulation of macrophage inhibitory cytokine-1 gene in symptomatic benign prostatic hyperplasia.	J Urol	171(6)	2330-2335	2004
Takahashi, A., T. Tsukamoto, K. Tobisu, N. Shinohara, K. Sato, Y. Tomita, S. Komatsubara, O. Nishizawa, T. Igarashi, H. Fujimoto, H. Nakazawa, H. Komatsu, Y. Sugimura, Y. Ono, M. Kuroda, O. Ogawa, Y. Hirao, T. Hayashi, T. Tsushima, Y. Kakehi, Y. Arai, S.	Radical cystectomy for invasive bladder cancer: results of multi-institutional pooled analysis.	Jpn J Clin Oncol	34(1)	14-19	2004
篁 善行.	特集「癌治療専門医制度を考える—国民により良いがん治療を提供するシステムについて」日本泌尿器科学会の立場から	癌の臨床	印刷中	印刷中	印刷中
篁 善行	特集—泌尿生殖器腫瘍の新しい癌化学療法. 泌尿生殖器腫瘍に対する分子標的治療の可能性	Urology View	2(6)	104-109	2004
篁 善行、乾 政志.	特集—高齢者のがん治療戦略とがん看護(1) 高齢者泌尿器がんに対する治療戦略.	がん看護	9(1)	31-34	2004
篁 善行	PSA時代の前立腺癌に対する待機療法	泌尿器外科	17(8)	828-836	2004
桑田善弘、島田 治、佃文夫、乾 政志、武田繁雄、篁 善行.	科学的QOL解析遂行にあたっての問題点:前立腺癌患者について	西日泌尿	66	222-225	2004
武田繁雄、島田 治、佃 文夫、乾 政志、桑田善弘、篁 善行、三谷昌弘、高島 均.	マーカー金球による一補正を併用した前立腺3次元原体外照射療法(3D-CRT)の照射方法と短期安全性.	泌尿紀要	50	611-616	2004
Ohe Y, Negoro S, Matsui K, Nakagawa K, Sugiura T, Takada Y, Nishiwaki Y, Yokota S, Kawahara M, Saijo N, Fukuoka M, Ariyoshi Y.	Phase I-II study of amrubicin and cisplatin in previously untreated patients with extensive-stage small-cell lung cancer.	Ann Oncol		in press	2005

Yamamoto N, Fukuoka M, Negoro S, Nakagawa K, Saito H, Matsui K, Kawahara M, Senba H, Takada Y, Kudoh S, Nakano T, Katakami N, Sugiura T, Hosoi T, Ariyoshi Y. for the West Japan Thoracic Oncology Group.	Randomized phase II study of docetaxel/ cisplatin versus docetaxel/ irinotecan in advanced non-small cell lung cancer: a West Japan Thoracic Oncology Study (WJTOG9803).	Br J Cancer	90	87-92	2004
Kurata T, Tamura K., Kaneda H, Nogami T, Uejima H, Asai G, Nakagawa K, Fukuoka M.	Effect of re-treatment with gefitinib ('Iressa', ZD1839) after acquisition of resistance.	Ann Oncol	15	173-174	2004
Kurata T, Tamura K, Yamamoto N, Nogami T, Satoh T, Kaneda H, Nakagawa K, Fukuoka M.	Combination phase I study of nedaplatin and gemcitabine for advanced non-small-cell lung cancer.	Br J Cancer	90	2092-2096	2004
Kaneda H, Tamura K, Kurata T, Uejima H, Nakagawa K, Fukuoka M.	Retrospective analysis of the predictive factors associated with the response and survival benefit of gefitinib in patients with advanced non-small-cell lung cancer.	Lung Cancer	46	247-254	2004
Herbst RS, Fukuoka M, Baselga J.	Timeline: Gefitinib—a novel targeted approach to treating cancer.	Nat Rev Cancer	4	956-965	2004
Kakiuchi S, Daigo Y, Ishikawa N, Furukawa C, Tsunoda T, Yano S, Nakagawa K, Tsuruo T, Kohno N, Fukuoka M, Sone S, Nakamura Y.	Prediction of sensitivity of advanced non-small cell lung cancers to gefitinib (Iressa, ZD1839).	Hum Mol Genet	13	3029-3043	2004
Saijo N.	What are the reasons for negative phase III trials of molecular-target-based drugs?	Cancer Science	95(10)	772-776	2004
Sekine I, Nokihara H, Horiike A, Yamamoto N, Kunitoh H, Ohe Y, Tamura T, Kodama T, Saijo N.	Phase I study of cisplatin analogue nedaplatin (254-S) and paclitaxel in patients with unresectable squamous cell	Br. J. Cancer	90	1125-1128	2004
Saijo N, Horiike	A. Topoisomerase I inhibitors in small-cell lung cancer, The Japanese experience.	Oncology	18(7) suppl 4	11-16	2004
Sekine I, Yamamoto N, Kunitoh H, Ohe Y, Tamura T, Kodama T, Saijo N.	Treatment of small cell lung cancer in the elderly based on a critical literature review of clinical trials.	Cancer Treat. Reviews	30	359-368	2004
Takano T, Ohe Y, Kusumoto M, Tateishi U, Yamamoto S, Nokihara H, Yamamoto N, Sekine I, Kunitoh H, Tamura T, Kodama T, Saijo N.	Risk factors for interstitial lung disease and predictive factors for tumor response in patients with advanced non-small cell lung cancer treated with gefitinib.	Lung Cancer	45	93-104	2004
Minami H, Ohe Y, Niho S, Goto K, Ohmatsu H, Kubota K, Kakinuma R, Nishiwaki Y, Nokihara H, Sekine I, Saijo N, Hanada K, Ogata H.	Comparison of pharmacokinetics and pharmacodynamics of docetaxel and cisplatin in elderly patients: Why is toxicity increased in elderly patients?	J. Clin. Oncol.	22(14)	2901-2908	2004
Sekine I, Noda K, Oshita F, Yamada K, Tanaka M, Yamashita K, Nokihara H, Yamamoto N, Kunitoh H, Ohe Y, Tamura T, Kodama T, Sumi M, Saijo N.	Phase I study of cisplatin, vinorelbine, and concurrent thoracic radiotherapy for unresectable stage III non-small cell lung cancer.	Cancer Sci.	95(8)	691-695	2004
Goto K, Sekine I, Nishiwaki Y, Kakinuma R, Kubota K, Matsumoto H, Ohmatsu H, Niho S, Kodama T, Shinkai T, Tamura T, Ohe Y, Kunitoh H, Yamamoto N, Nokihara H, Yoshida K, Sugiura T, Matsui K and Saijo N.	Multi-institutional phase II trial of irinotecan, cisplatin, and etoposide for sensitive relapsed small-cell lung cancer.	Br. J. Cancer	91(4)	659-665	2004
Taguchi F, Koh Y, Koizumi F, Tamura T, Saijo N, Nishio K.	Anticancer effects of ZD6474, a VEGF receptor tyrosine kinase inhibitor, in gefitinib ('Iressa')-sensitive and resistant xenograft models.	Cancer Sci.	95(12)	984-989	2004

Suzuki k, Tsuchiya R, et al,	Combined Resection of Superior Vena Cava for Ling Cancr Carcionoma: Prognostic Significance of Patterns of Superior Vena Cava Invasion	Ann Thorac Surg	78	1184-1189	2004
Watanabe S, Tsuchiya R, et al,	Recent Results of Postoperative Mortality for Surgical Resectionsin Lung Cancer.	Ann Thorac Surg	78	999-1003	2004
Ishikura S, Ohe Y, et al.	A phase II study of hyperfractionated accelerated radiotherapy (HART) following induction cisplatin (CDDP) and vinorelbine (VNR) for stage III non-small cell lung cancer (NSCLC).	Int J Radiat Oncol Biol Phys			2005; (in press)
石倉 聡	肺癌治療における放射線治療の位置づけ	現代医療	36	137-140	2004
石倉 聡	放射線治療の品質管理・品質保証	Cancer Frontier	6	113-117	2004
木澤義之	特集:肺癌の緩和医療, 終末期医療のポイント	日本胸部臨床	第64巻, 第1	43-48	2005
木澤義之	一般病院における研修医教育の実際と展望	緩和ケア	第15巻, 第1	16-21	2005
木澤義之	緩和医療教育のビジョンと文献	緩和ケア	第15巻, 第1	40-41	2005
木澤義之, 松本俊子, 池田徹, 中村明澄.	座談会 緩和ケアでの医療者の卒前教育・卒後臨床におけるポイントは何か	緩和ケア	第15巻, 第1	44-48,	2005
久永貴之, 木澤義之	疼痛緩和において必要なツール, 検査とその意義	今月の治療	vol12, No.9,	41-44	2004
佐伯 俊昭	乳がんの治療後早期閉経 更年期障害の治療法は?	きょうの健康	193	139	2004
佐伯 俊昭	乳がんの標準的薬物治療の普及を目指して—厚生労働省化学研究費補助金による化学的根拠に基づくガイドライン—	医療	58	278-283	2004
佐伯 俊昭	乳癌化学療法 of 最近の動向と副作用対策	エビデンスに基づいた化学療法ハンドブック		126-137	2004
佐伯 俊昭	外来がん化学療法の副作用対策	外科治療	91	246-253	2004
佐伯 俊昭	インフォームド・コンセント取得における2段階式 乳癌診療用クリニカルパスの有用性	乳癌の臨床	19	97-102	2004
佐伯 俊昭	「標準的治療」とは	毎日ライフ	2	50-57	2004
佐伯 俊昭	外来化学療法と治験における医師・薬剤師・看護師の連携	薬局	55	90-96	2004
佐伯 俊昭	更年期障害の治療法は?	NHK今日の健康	4	139	2004
佐伯 俊昭	(特集 臨床医のための新薬の知識2004) 代謝拮抗薬 カペシタビン	臨床と薬物治療	23	73-75	2004
佐伯 俊昭	進行・再発乳癌に対するS-1の後期臨床第II相試験	癌と化学療法	31	539-547	2004
佐伯 俊昭	(特集 婦人科がんのリスクファクター) 10. 乳がんのリスクファクター	産科と婦人科	71	77-82	2004
佐伯 俊昭	ネオアジュバンド療法—薬剤選択とその根拠	臨床外科	59	1117-1122	2004
佐伯 俊昭	(特集 癌治療におけるCapecitabine) Capecitabine (ゼローダR) 臨床試験のEvidanceと日常診療における使用法	癌治療と宿主	16	73-75	2004
神津忠彦	医学教育におけるファカルティ・ディベロップメントのあり方	JMEF	24号	107-116	2004
神津忠彦	クリニカル・クラークシップ	Clinician	51巻	37-42	2004

T. Seto, Y. Takezaka, H. Nakamura, K. Takeda, F. Inoue, H. Semba, K. Eguchi	Doublet regimen of cisplatin plus docetaxel for second-line chemotherapy after prior therapy with cisplatin plus irinotecan for non-small cell lung cancer: a phase II study.	Int J Clin Oncol	9	378-82	2004
T. Saeki, K. Eguchi, S. Takashima, T. Sugiura, T. Hida, N. Horikoshi, K. Aiba, T. Kuwabara, M. Ogawa	Phase I and pharmacokinetic study of KW-2170, a novel pyrazoloacridone compound, in patients with malignant tumors.	Cancer Chemother Pharmacol	54	459-68	2004
A Hiraki, H Ueoka, I Takata, K Gemba, A Bessho, Y Segawa, K Kiura, K Eguchi, T Yoneda, M Tanimoto, M Harada	Hypercalcemia-leukocytosis syndrome associated with lung cancer.	Lung Cancer	43	301-7	2004
R Kakinuma, H. Ohmatsu, M. Kaneko, M. Kusumoto, J. Yoshida, K. Nagai, Y. Nishiwaki, T. Kobayashi, R. Tsuchiya, H. Nishiyama, E. Matsui, K. Eguchi, N. Moriyama,	Progression of Focal Pure Ground-Glass Opacity Detected by Low-Dose Helical Computed Tomography Screening for Lung Cancer.	J Comput Assist Tomogr	28	17-23	2004
江口研二	肺癌検診の現状と問題点	日本医事新報社	4178	1-9	2004
江口研二	肺癌の治療戦略 肺癌	Medical Practice	21	1208-1218	2004
江口研二	呼吸器疾患の胸部単純X線写真見落としのない読影のポイント 肺癌	診断と治療	92	653-658	2004
Suzumiya J, Suzushima H, Maeda K, Okamura S, Utsunomiya A, Shibuya T, Tamura K, Kyushu Hematology Organization For Treatment Study Group	Phase I study of the combination of irinotecan hydrochloride, carboplatin, and dexamethasone for the treatment of relapsed or refractory malignant lymphoma	Intern J Hematol	79		2004
Tamura K, Imajo K, Akiyama N, Suzuki K, Urabe A, Ohyashiki K, Tanimoto M, Masaoka T and the Japan Febrile Neutropenia Study Group	Randomized trial of cefepime monotherapy or cefepime in combination with amikacin as empirical therapy for febrile neutropenia.	Clin Infect Dis	39(Sup pl 1)	s15-s24	2004
河野理子、宇都宮與、松岡 均、河野文夫、池田柊一、和泉洋一郎、塚田順一、渋谷恒文、岡村精一、鶴池直邦、長野光之、田村和夫。	九州血液疾患治療研究グループ(K-HOT)による血液疾患登録	臨床血液	45	478-480	2004
白濱重敏、有富貴道、竹尾貞徳、安藤公英、若松信一、熊川みどり、一瀬一郎、田村和夫	非小細胞肺癌既治療例に対するPaclitaxel週1回投与のPilot Study	癌と化学療法	31	2133-2137	2004
Tsuda N, Mochizuki K, Harada M, Sukehiro A, Kawano Koichiro, Yamada A, Ushijima K, Sugiyama T, Nishida T, Yamada H, Itoh K, Kamura T	Vaccination with pre-designated or evidence-based peptides for patients with recurrent gynecologic cancers.	J Immunother	27	60-72	2004
Hachisuga T, Saito T, Kigawa J, Ohwada M, Yamazawa K, Yasue A, Iwasaka T, Sugiyama T, Kita T, Nagai N.	Clinicopathologic study of 56 patients with endometrial cancer during or after adjuvant tamoxifen use for their breast cancers.	Gynecol Oncol	95	139-144	2004
清水正彦、原敬二郎、杉山徹	更年期障害にみられた難治性外陰部自発痛に対する桂枝茯苓丸の臨床効果と病態に関する東洋医学的一考察。	産婦人科漢方研究のあゆみ	21	108-110	2004
杉山徹、吉崎陽、川原寿緒	卵巣癌に対するsecond-line化学療法	産婦人科の実際	53(1)	19-29	2004
杉山徹、寺内文敏、小見英夫	産婦人科手術時の合併症軽減のために進行卵巣癌。	産婦人科の実際	53(3)	391-400	2004
杉山徹	漢方 卵巣がん	週間朝日	4/5増刊号	59	2004

杉山徹	卵巣がん治療のCONTROVERSY (4) 初回化学療法の選択-組織型別にレジメンを変えるべきか?	産科と婦人科	71(9)	1160-1164	2004
杉山徹	セカンドライン化学療法の現状と問題点	臨床婦人科産科	58(10)	1251-1255	2004
山田秀和、杉山徹	子宮頸癌・子宮体癌・卵巣癌の診断と治療-最新の研究動向- 卵巣癌の治療 化学療法-概論-	日本臨床	62 (増刊号)	540-545	2004
杉山徹、井筒俊彦	子宮頸癌・子宮体癌・卵巣癌の診断と治療-最新の研究動向- 子宮体癌の治療 ホルモン療法-概論-	日本臨床	62 (増刊号)	370-374	2004
杉山徹	性器がんと漢方	産婦人科治療	89	421-426	2004
杉山徹	卵巣腫瘍・卵管腫瘍	NEWエッセンシャル産科学・婦人科学	第3版	231-239	2004
大原房子、高野利実、大江裕一郎	EGFR阻害剤と他の分子標的薬との併用療法	分子呼吸器病	9	168-171	2005
高野真吾、楠本昌彦、立石宇貴秀、松野吉宏、大江裕一郎、浅村尚生	若年者気管原発小細胞癌の1例	肺癌	45	133-137	2005
大江裕一郎	肺の癌性リンパ管症の診断と治療	日本医事新報	4244	87-88	2005
大江裕一郎	国立がんセンター中央病院の外来化学療法	癌と化学療法	32	20004-2005	2005
小倉孝氏、加藤晃史、大江裕一郎	間質性肺炎	Medicina	42	2005-2011	2005
大江裕一郎	わが国の大規模臨床試験FACSの成績から	呼吸器NEWS&VIEWS 2005-2006	27	5-7	2005
原田英博、新明裕子、大江裕一郎	III期非小細胞肺がんの放射線化学療法	呼吸器科	9	93-100	2006
大江裕一郎、南 博信、横山雅大、安井久晃	がん薬物療法専門医制度の展望	The Medical Oncologists	特別号	2-11	2006
Ohe Y, Negoro S, Matsui K, Nakagawa K, Sugiura T, Takada Y, Nishiwaki Y, Yokota S, Kawahara M, Saijo N, Fukuoka M, Ariyoshi Y	Phase I-II Study of Amrubicin and Cisplatin in Previously Untreated Patients with Extensive-Stage Small-Cell Lung Cancer.	Ann Oncol	16	430-436	2005
Yamamoto N, Tamura T, Murakami H, Shimoyama T, Nokihara H, Ueda Y, Sekine I, Kunitoh H, Ohe Y, Kodama T, Shimizu M, Nishio K, Ishizuka N, Saijo N	Randomized Pharmacokinetic and Pharmacodynamic Study of Docetaxel: Dosing Based on Body-Surface Area Compared With Individualized Dosing Based on Cytochrome P450 Activity Estimated Using a Urinary Metabolite of Exogenous Cortiso	J Clin Oncol	23	1061-1069	2005
Ishikura S, Ohe Y, Nihei K, Kubota K, Kakinuma R, Ohmatsu H, Goto K, Niho S, Nishiwaki Y, Ogino T.	A phase II study of hyperfractionated accelerated radiotherapy (HART) after induction cisplatin (CDDP) and vinorelbine (VNR) for stage III Non-small-cell lung cancer (NSCLC).	Int J Radiat Oncol Biol Phys	61	1117-1122	2005
Hichiya H, Tanaka-Kagawa T, Soyama A, Jinno H, Koyano S, Katori N, Matsushima E, Uchiyama S, Tokunaga H, Kimura H, Minami N, Katoh M, Sugai K, Goto YI, Tamura T, Yamamoto N, Ohe Y, Kunitoh H, Nokihara H, Yoshida T, Minami H, Saijo N, Ando M, Ozawa S, Sai	Functional Characterization of Five Novel CYP2C8 Variants, G171S, R186X, R186G, K247R and K383N, Found in a Japanese Population.	Drug Metab Dispos	33	630-636	2005
Ikeda S, Kurose K, Jinno H, Sai K, Ozawa S, Hasegawa R, Komamura K, Kotake T, Morishita H, Kamakura S, Kitakaze M, Tomoike H, Tamura T, Yamamoto N, Kunitoh H, Yamada Y, Ohe Y, Shimada Y, Shirao K, Kubota K, Minami H, Ohtsu A, Yoshida T, Saijo N, Saito Y,	Functional Analysis of Four Naturally Occurring Variants of Human Constitutive Androstane Receptor	Mol Genet Metab	61	1117-1122	2005

Takano T, <u>Ohe Y</u> , Sakamoto H, Tsuta K, Matsuno Y, Tateishi U, Yamamoto S, Nokihara H, Yamamoto N, Sekine I, Kunitoh H, Shibata T, Sakiyama T, Yoshida T, Tamura T.	Epidermal Growth Factor Receptor Gene Mutations and Increased Copy Numbers Predict Gefitinib Sensitivity in Patients with Recurrent Non-Small-Cell Lung Cancer.	J Clin Oncol	23	6829-6837	2005
Yamazaki S, Sekine I, Matsuno Y, Takei H, Yamamoto N, Kunitoh H, <u>Ohe Y</u> , Tamura T, Kodama T, Asamura H, Tsuchiya R, Saijo N	Clinical responses of large cell neuroendocrine carcinoma of the lung to cisplatin-based chemotherapy	Lung Cancer	49	217-223	2005
Takano T, <u>Ohe Y</u>	Erlotinib in lung cancer	N Engl J Med	353	1739-1741	2005
<u>Ohe Y</u>	Chemoradiotherapy for lung cancer	Expert Opin Pharmacother	6	2793-2804	2005
Matsui K, Hirashima T, Nitta T, Kobayashi M, Ogata Y, Furukawa M, Kudoh S, Yoshimura N, Mukohara T, Yamauchi S, Shiraishi S, Kamoi H, Negoro S, Takeda K, Nakagawa K, Takada M, Yana T, Fukuoka M.	A phase I/II study comparing regimen schedules of gemcitabine and docetaxel in Japanese patients with stage IIIB/IV non-small cell lung cancer.	Jpn J Clin Oncol	35	181-187	2005
<u>Ohe Y</u> , Negoro S, Matsui K, Nakagawa K, Sugiura T, Takada Y, Nishiwaki Y, Yokota S, Kawahara M, Saijo N, <u>Fukuoka M</u> , Ariyoshi Y.	Phase I-II study of amrubicin and cisplatin in previously untreated patients with extensive-stage small-cell lung cancer.	Ann Oncol	16	430-436	2005
Sugiura T, Ariyoshi Y, Negoro S, Nakamura S, Ikegami H, Takada M, Yana T, <u>Fukuoka M</u> .	Phase I/II study of amrubicin, a novel 9-aminoanthracycline, in patients with advanced non-small-cell lung cancer.	Invest New Drugs	23	331-337	2005
Yoshimura N, Kudoh S, Kimura T, Mitsuoka S, Matsuura K, Hirata K, Matsui K, Negoro S, Nakagawa K, <u>Fukuoka M</u> .	EKB-569, a new irreversible epidermal growth factor receptor tyrosine kinase inhibitor, with clinical activity in patients with non-small cell lung cancer with acquired resistance to gefitinib.	Lung Cancer	51	363-368	2005
Yonesaka K, Tamura K, Kurata T, Satoh T, Ikeda M, <u>Fukuoka M</u> , Nakagawa K.	Small interfering RNA targeting survivin sensitizes lung cancer cell with mutant p53 to adriamycin.	Int J Cancer		812-820	2006
Tamura K. and <u>Fukuoka M</u> .	Gefitinib in non-small cell lung cancer	Expert Opin Pharmacother	6(6)	985-993	2005
Yamamoto N, Tsurutani J, Yoshimura N, Asai G, Moriyama A, Nakagawa K, Kudou S, Takada M, Minato Y, <u>Fukuoka M</u> .	Phase II study of weekly paclitaxel for Relapsed and refractory small cell lung cancer.	Anticancer Res			2006 in press
Okamoto I, Araki J, Suto R, Shimada M, Nakagawa K, <u>Fukuoka M</u> .	EGFR mutation in gefitinib-responsive small-cell lung cancer.	Ann Oncol			2006 in press
<u>Ohe Y</u> , Negoro S, Matsui K, Nakagawa K, Sugiura T, Takada Y, Nishiwaki Y, Yokota S, Kawahara M, <u>Saijo N</u> , <u>Fukuoka M</u> , Ariyoshi Y.	Phase I-II study of amrubicin and cisplatin in previously untreated patients with extensive-stage small-cell lung cancer.	Ann Oncol	16(3)	430-436	2005
Atagi S, Kawahara M, Tamura T, Noda K, Watanabe K, Yokoyama A, Sugiura T, Senba H, Ishikura S, Ikeda H, Ishizuka N, <u>Saijo N</u> .	Standard thoracic radiotherapy with or without concurrent daily low-dose carboplatin in elderly patients with locally advanced non-small cell lung cancer: a phase III trial of the Japan Clinical Oncology Group (JCOG9812).	Jpn J Clin Oncol	35(4)	195-201	2005
<u>Saijo N</u> , Nimura Y.	Summary of the ASCO-JSCO joint symposium.	Int J Clin Oncol	10(3)	153-156	2005
<u>Saijo N</u> .	What phase III trials are needed to improve the treatment of advanced non-small-cell lung cancer?	Nat Clin Pract Oncol	2(6)	275	2005
<u>Saijo N</u> .	Is radiotherapy optimally combined with chemotherapy in elderly patients with limited-stage small-cell lung cancer?	Nat Clin Pract Oncol	2(11)	550-551	2005
Kiura K, <u>Saijo N</u> .	Can dose-dense chemotherapy improve outcome in patients with better-prognosis small-cell lung cancer?	Nat Clin Pract Oncol	2(12)	610-611	2005
Tsuboi M, <u>Tsuchiya R</u> , et al.	Gefitinib in the adjuvant setting: safety results from a phase III study in patients with completely resected non-small cell lung cancer	Anti Cancer Drugs	16	1123-1128	2005

Atagi S, Kawahara M, Tamura T, Noda K, Watanabe K, Yokoyama A, Sugiura T, Senba H, Ishikura S, Ikeda H, Ishizuka N, Saijo N.	Standard thoracic radiotherapy with or without concurrent daily low-dose carboplatin in elderly patients with locally advanced non-small cell lung cancer: a phase III trial of the Japan Clinical Oncology Group (JCOG9812).	Jpn J Clin Oncol	35	195-201	2005
佐治重豊、佐々木常雄、平田公一、久保田哲朗、古畑智久、福井次矢、小山弘、新保卓郎、戸井雅和、石岡千加史、松井邦彦、朝長万左男、佐伯俊昭、坂巻 壽、伊藤良則、陣内逸郎、辛 栄成、塚崎邦弘、岩田広治、渡辺隆、渡辺 亨、清水一之、鹿間直人、村上博和、田島知郎、大野竜三	抗がん剤適正使用のガイドライン 乳がん	International Journal of Clinical Oncology	10	15-55	2005
佐伯俊昭	家族性乳がんの遺伝子診断	毎日ライフ	10	103	2005
Toshimasa Yoshioka, Taiyo Suganuma, Ann C Tang, Susumu Matsushita, Sumie Manno, Tadahiko Koza	Facilitation of problem finding among first year medical school students undergoing problem-based learning	Teaching and Learning in Medicine	17(2)	136-141	2005
神津忠彦	教育機関におけるファカルティ・ディベロップメントの現状と課題	日本看護学教育学会雑誌	15(2)	71-77	2005
瀬戸貴司, 江口研二	小細胞肺癌の最新標準治療	成人病と生活習慣病	35巻3号	293-297	2005
Ichinosuke Hyodo, Noriko Amano, Kenji Eguchi, Masaru Narabayashi, Jiro Imanishi, Midori Hirai, Tomohito Nakano, Shigemitsu Takashima	Nationwide survey on complementary and alternative medicine in cancer patients in Japan.	J Clin Oncol.	23	2645-2654	2005
田仲曜, 永島浩子, 奥山徹, 江口研二	保険医療となった癌緩和ケアチームとは	日本胸部臨床	64巻1号	22-30	2005
Yoshiyuki Abe, Kouzou Hanai, Makiko Nakano, Yasuyuki Ohkubo, Toshinori Hasizume, Toru Kakizaki, Masato Nakamura, Noboru Niki, Kenji Eguchi, Tadahiko Fujino, Noriyuki	A Computer-aided Diagnosis (CAD) System in Lung Cancer Screening with Computed Tomography.	Anticancer Research	25	438-8	2005
江口研二	肺癌検診-現状と今後-	肺癌最新医学別冊	呼吸器5	47-56	2005
Satoshi Morita, Kunihiko Kobayashi, Yasuo Ohashi, Kenji Eguchi, Masahiko Shibuya, Taketoshi Matsumoto, yasufumi Yamaji, Keiichi Nagao, Junichi Sakamoto, Hisanobu Niitani,	Weekly Assessment of Quality of Life in Patients with Advanced Non-small-cell Lung Cancer during Chemotherapy in a Randomized Phase III Trial..	Ann Cancer Res and Therapy	12	105-17	2004
Satoshi Morita, Kunihiko Kobayashi, Kenji Eguchi, Taketoshi Matsumoto, Masahiko Shibuya, Yasufumi Yamaji, Yasuo Ohashi.	Analysis of incomplete quality of life data in advanced stage cancer: A practical application of multiple imputation.	Quality of Life Research	12	1533-44	2005
田村和夫	専門医等が果たす役割 臨床腫瘍専門医と社会への貢献	臨床医	31	1317-1320	2005
田村和夫	臨床腫瘍学の現状と展望IV.がん治療をめぐる欧米と日本の違い	Progress in Medicine	25	39-43	2005
田村和夫	欧米における腫瘍内科医	Modern Physician	25	1211-1216	2005
Yanada M, Takeuchi J, Sugiura I, Akiyama H, Usui N, Yagasaki F, Kobayashi T, Ueda Y, Takeuchi M, Miyawaki S, Maruta A, Emi N, Miyazaki Y, Ohtake S, Jinnai I, Matsuo K, Naoe T, Ohno R; Japan Adult	High complete remission rate and promising outcome by combination of imatinib and chemotherapy for newly diagnosed BCR-ABL-positive acute lymphoblastic leukemia: a phase II study by the Japan Adult Leukemia Study Group.	J Clin Oncol	24	460-6	2006
Ito Y, Ohyashiki K, Hirai H, Ogawa S, Mitani K, Hotta T, Bessho M, Naoe T, Mizoguchi H, Uchiyama T, Omine M.	Assessment of the international prognostic scoring system for determining chemotherapeutic indications in myelodysplastic syndrome: Japanese retrospective multicenter study.	Int J Hematol	82	236-42	2005
Yanada M, Matsuo K, Suzuki T, Kiyoi H, Naoe T.	Prognostic significance of FLT3 internal tandem duplication and tyrosine kinase domain mutations for acute myeloid leukemia: a meta-analysis.	Leukemia	19	1345-9	2005



Yanada M, Matsuo K, Emi N, <u>Naoe T.</u>	Efficacy of allogeneic hematopoietic stem cell transplantation depends on cytogenetic risk for acute myeloid leukemia in first disease remission: a metaanalysis.	Cancer	103	1652-8	2005
直江 知樹	がん薬物療法の実際 血液腫瘍	Progress in Medicine	25	2055-58	2005
木下 朝博, 直江 知樹	悪性リンパ腫	内科	96	1037-1045	2005
杉山徹、喜多川亮、嘉村敏治	子宮悪性腫瘍薬	医薬ジャーナル	41	181-188	2005
杉山徹	卵巣癌におけるセカンドライン化学療法の選択とその意義	癌と化学療法	32	28-32	2005
竹内聡、杉山徹	子宮頸癌・体癌における腫瘍マーカーとその利用の仕方.	成人病と生活習慣病	35(6)	663-667	2005
杉山徹、小見英夫、岩根恵子	婦人科領域のピットフォール 3. 腹式子宮全摘手術における合併症対策.	産婦人科の実際	54	417-424	2005
寺内文敏、杉山徹	安全な婦人科手術をめざして「腹腔内播種病巣の摘出」大網切除を含めて卵巣癌で要求させるもの.	臨床婦人科産科	59(5)	753-755	2005
杉山徹	明細胞癌に対する化学療法-First-line、Second-line.	産科と婦人科	72(5)	606-612	2005
杉山徹	婦人科癌.	漢方と最新治療	14(2)	141-147	2005
杉山徹	卵巣癌.	癌と化学療法	32	1096-1103	2005
竹内聡、杉山徹	子宮頸癌・体癌における腫瘍マーカーとその利用の仕方.	成人病と生活習慣病	35(6)	663-667	2005
杉山徹	わが国の臨床研究の問題点と対策.	産科と婦人科	72(9)	1164-1169	2005
Sekine I, Nokihara H, Yamamoto N, Kunitoh H, <u>Ohe Y.</u> , Saijo N, Tamura T	Common arm analysis: One approach to develop the basis for global standardization in clinical trials of non-small cell lung cancer	Lung Cancer	53	157-164	2006
Sekine I, Sumi M, Ito Y, Nokihara H, Yamamoto N, Kunitoh H, <u>Ohe Y.</u> , Kodama T, Saijo N, Tamura T	Retrospective analysis of steroid therapy for radiation-induced lung injury in lung cancer patients	Radiother Oncol	80	93-97	2006
Nakajima Y, Yoshitani T, Fukushima-Uesaka H, Saito Y, Kaniwa N, Kurose K, Ozawa S, Aoyagi N, Kamatani N, Yamamoto N, Kunitoh H, <u>Ohe Y.</u> , Tamura T, Yoshida T, Minami H, Saijo N, Katori N, Sawada JI	Impact of the haplotype CYP3A4*16B harboring the Thr185Ser substitution on paclitaxel metabolism in Japanese patients with cancer	Clin Pharmacol Ther	80	179-191	2006
Fujisaka Y, Tamura T, <u>Ohe Y.</u> , Kunitoh H, Sekine I, Yamamoto N, Nokihara H, Horiike A, Kodama T,	Pharmacokinetics and Pharmacodynamics of Weekly Epoetin Beta in Lung Cancer Patients	Jpn J Clin Oncol	36	477-482	2006
Sai K, Itoda M, Saito Y, Kurose K, Katori N, Kaniwa N, Komamura K, Kotake T, Morishita H, Tomoike H, Kamakura S, Kitakaze M, Tamura T, Yamamoto N, Kunitoh H, Yamada Y, <u>Ohe Y.</u> , Shimada Y, Shirao K, Minami H, Ohtsu A, Yoshida T, Saijo N, Kamatani N, Ozawa S, Sawada J	Genetic Variations and Haplotype Structures of the ABCB1 Gene in a Japanese Population: An Expanded Haplotype Block Covering the Distal Promoter Region, and Associated Ethnic Differences	Ann Hum Genet	70	605-622	2006
Nomoto K, Tsuta K, Takano T, Fukui T, Fukui T, Yokozawa K, Sakamoto H, Yoshida T, Maeshima AM, Shibata T, Furuta K, <u>Ohe Y.</u> , Matsuno Y	Detection of EGFR Mutations in Archived Cytologic Specimens of Non-Small Cell Lung Cancer Using High-Resolution Melting Analysis	Am J Clin Pathol	126	608-615	2006
Morishima Y, Ogura M, Yoneda S, Sakai H, Tobinai K, Nishiwaki Y, Minami H, Hotta T, Ezaki K, <u>Ohe Y.</u> , Yokoyama A, Tsuboi M, Mori K, Watanabe K, Ohashi Y, Hirashima K, Saijo N	Once-Weekly Epoetin-Beta Improves Hemoglobin Levels in Cancer Patients with Chemotherapy-Induced Anemia: A Randomized, Double-Blind, Dose-Finding Study	Jpn J Clin Oncol	36	655-661	2006
<u>Ohe Y.</u> , Ohashi Y, Kubota K, Tamura T, Nakagawa K, Negoro S, Nishiwaki Y, Saijo N, Ariyoshi Y, Fukuoka M.	Randomized Phase III Study of Cisplatin plus Irinotecan versus Carboplatin plus Paclitaxel, Cisplatin plus Gemcitabine, and Cisplatin plus Vinorelbine for Advanced Non-Small Cell Lung Cancer: Four-Arm Cooperative Study in Japan.	Ann Oncol	18	317-323	2007

Okano T, Kondo T, Fujii K, Nishimura T, Takano T, Ohe Y, Tsuta K, Matsuno Y, Gemma A, Kato H, Kudoh S, Hirohashi S	Proteomic Signature Corresponding to the Response to Gefitinib (Iressa, ZD1839), an Epidermal Growth Factor Receptor Tyrosine Kinase Inhibitor in Lung	Clin Cancer Res	13	799-805	2007
原田英博、新明裕子、大江裕一郎	III期非小細胞肺がんの放射線化学療法	呼吸器科	9	93-100	2006
大江裕一郎、南博信、横山雅大、安井久晃	がん薬物療法専門医制度の展望	The Medical Oncologists	特別号	2-11	2006
大江裕一郎	局所進行非小細胞肺がん治療におけるチロシン・キナーゼEGFR阻害薬:胸部放射線治療との併用療法	肺癌	46	261-265	2006
大江裕一郎、西條長宏	がん薬物療法専門医とがん治療認定医	Cancer Frontier	8	176-181	2006
大江裕一郎	JSMO(第4回日本臨床腫瘍学会)	Cancer Frontier	8	185-187	2006
大江裕一郎	肺癌	日経メディカル	468	101-103	2006
福山 税、大江裕一郎	進行非小細胞肺癌における殺細胞性抗癌療法の展望	最新医学	61	2271-2276	2006
荒木和浩、安藤雄一	非小細胞肺癌の化学療法	外科治療	95(6)	638-650	2006
安藤雄一	抗がん剤治療のケアレクチャー基礎講座	消化器外科NURSING	11(9)	854-873	2006
安藤雄一	がん化学療法 カンプトテシン系抗がん剤の特徴を教えてください	看護技術	52(8)	82-83	2006
安藤雄一	がん化学療法 プラチナ系抗がん剤の特徴を教えてください	看護技術	52(7)	82-83	2006
杉山徹	卵巣癌におけるセカンドライン化学療法の選択とその意義	癌と化学療法	32	1096-1103	2005
竹内聡、杉山徹	子宮頸癌・体癌における腫瘍マーカーとその利用の仕方	成人病と生活習慣病	35(6)	1164-1169	2005
杉山徹	わが国の臨床研究の問題点と対策.	産科と婦人科	72(9)	434-439	2006
利部正裕、杉山徹	婦人科がんを見逃さないために「婦人科がん早期診断の要点・問題点4」卵巣癌	臨床婦人科産科	60(8)	239-248	2006
Ohtsu A, Shigeaki Yoshida, Nagahiro Saijo	Disparities in gastric cancer chemotherapy between the East and West.	J Clin Oncol	24(14)	2188-2196	2006
Nagata Y, Matuo Y, Takayama K, et al.	Current status of stereotactic radiosurgery for lung cancer.	Int. J. of Clinical Oncology	12	3-7	2007
Yonemori K, Tsuta K, Tateishi U, Uno H, Asamura H, Matsuno Y, Kusumoto M.	Diagnostic accuracy of CT-guided percutaneous cutting needle biopsy for thymic tumours.	Clin Radiol	61	771-775	2006

# 研究成果の刊行に関する一覧表

平成16年4月から平成18年3月まで

## 書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
日本胃癌学会、佐々木常雄ほか	胃癌治療ガイドライン 医師用 2004年4月改訂第2版	日本胃癌学会	胃癌治療ガイドライン 医師用 2004年4月改訂第2版	金原出版	東京	2004	
日本胃癌学会、佐々木常雄ほか	胃癌治療ガイドライン 一般用 2004年12月改訂第2版	日本胃癌学会	胃癌治療ガイドライン 一般用 2004年12月改訂第2版	金原出版	東京	2004	
片井 均	臨床腫瘍医に関連した教育の現状と本ガイドラインの意義	片井均	がん診療ガイドライン	メジカルフレンド社	東京	2005	1-5
木澤義之	Whole Patient Assessment緩和医療初診時の包括的評価—	池永昌之、木澤義之	総合診療ブックスギア・チェンジ緩和医療を学ぶ21会	医学書院	東京	2004	24-37
佐伯俊昭	乳癌化学療法の最近動向と副作用対策	有吉寛	エビデンスに基づいた癌化学療法ハンドブック	メディカルレビュー社	東京	2004	126-136
佐伯俊昭	術前補助化学療法	霞富士雄	乳癌治療のコツと落とし穴	中山書店	東京	2004	54-55
佐伯俊昭	乳癌診療用クリニカルパスを中心としたインフォームドコンセント効率的取得のための工夫	佐野宗明 高塚雄一		金原出版	東京	2004	61-82
佐伯俊昭	乳がん	有吉寛 高嶋成光	高齢者のがん医療	ヘスコインターナショナル	東京	2004	1-21
医学系教育基準検討委員会		佐藤登志郎	医学教育にかんする基準	大学基準協会	東京	2005	1-34
神津忠彦	がん患者(およびその家族)の面接と診療	片井均	がん診療ガイドライン	メジカルフレンド社	東京	2005	19-21
神津忠彦	緩和医療	片井均	がん診療ガイドライン	メジカルフレンド	東京	2005	53-54
神津忠彦	Evidence-based Medicine	片井均	がん診療ガイドライン	メジカルフレンド社	東京	2005	55
神津忠彦	医療経済	片井均	がん診療ガイドライン	メジカルフレンド	東京	2005	59
江口研二	胸部X線写真・胸部CT検査異常とその対応	小川哲平、猿田亮男、田村政紀編	健診・人間ドックハンドブック	中外医学社	日本	2005	175-81
江口研二	肺癌診療におけるQuality of life (QOL) の評価	工藤翔二、中田絃一郎、貫和敏博編	呼吸器疾患最新の治療 2004-2006	南江堂	日本	2005	48-51

中野絵里子、加藤晃史、大江裕一郎	進行非小細胞肺癌の化学療法. 加藤治文ほか編 MOOK2004-2005.		肺癌の臨床	篠原出版 新社	東京	2005	237-245
大江裕一郎	臨床腫瘍専門医	西條長宏	インフォームドコンセントのための図説シリーズ がん薬物療法における支持療法	医薬 ジャーナル社	大阪	2005	74-76,
西條長宏、福岡正博、大江裕一郎、原田実根、堀田知光、桑野信彦、直江知樹、新津洋司郎、高嶋成光、鶴尾隆、上田龍三、根来俊一、石岡千加史、中西洋一、畠清彦、田村和夫、秋田弘俊、吉川裕之、徳田裕、大新明裕子、大江裕一郎	腫瘍内科学の進歩と変遷.	金倉 譲	臨床腫瘍内科学入門	永井書店	大阪	2005	1-5
	内科から見た小細胞癌の外科治療篠原出版新社、東京、pp193-199, 2006.	加藤治文ほか	肺癌の臨床MOOK2005~2006	篠原出版 新社	東京	2006	193-199
佐々木常雄	胃癌治療ガイドライン	千葉 勉	消化器疾患診療実践ガイド	文光堂	東京	2005	833-836
佐々木常雄	医療事故予防	荒井邦佳	スーパーローテート対応 ドクターズ・マニユア	文光堂	東京	2005	426-429
沖 英次、馬場秀夫、前原喜彦	化学療法の実際 4 胃癌 癌化学療法の実際	金倉 譲	臨床内科学入門 VIII	金原出版	東京	2005	244-249
木澤義之	緩和ケアにおける 医師の卒後研修の 現状と展望	(財)日本ホスピス・緩和 ケア研究振興財団 「ホスピス緩和ケア白 書2006」編集委員会	ホスピス緩和ケア白 書2006	非売品. ISBN4- 903246- 02-7	大阪	2006	12-16
高塚雄一、渡辺 亨、伊藤良則、岩田広治、大野真司、日馬幹弘、小林 直、佐伯俊昭、鹿間直人、徳田 裕、佐野宗明、田部井敏夫、晴山雅人、福井次矢、光山昌珠、池田 正、安藤二郎、稲治英生、岩平佳子、高橋かおる、福富隆志	外科療法	日本乳癌学会	化学的根拠に基づく 乳癌診療ガイドライ ン 2005年版	金原出版	東京	2005	
Tadahiko Kozu	Clinical education in Japanese medical schools	Korean Society of Medical Education	Clinical Medical Education: Lecture book of 17th Annual Meeting of Korean Society of Medical Education	Korean Society of Medical Education	Seoul	2005	13-21
Tadahiko Kozu	Curricular innovation in medical education in Japan	Medical Education Unit Yong Loo Lin School of Medicine	Curriculum TIPS: Lecture book of the 3rd Asia Pacific Conference of Medical Education	National Universit y of Singapore	Singapor e	2006	60
江口研二 清水英二 監訳	予防とスクリーニン グ	江口研二 清水英二	ギンスバーグ 肺癌 アメリカ癌協会 臨 床腫瘍学カラーア ート	西村書店	東京	2005	
柳田 正光 直江 知 樹	癌化学療法 update 白血病			中外医学 社		2005	477-484
直江 知樹 他	臨床腫瘍内科学入 門 腫瘍内 科学の進歩と変遷 (分担)			永井書店		2005	1-6
杉山徹、利部正裕	開腹・閉腹手技(1)	日本産婦人科手術学	産婦人科手術スタン ダード	MEDICA L VIEW	東京	2005	8-17
岡元るみ子 佐々木常雄	56. 支持療法 1)化学療法薬物有 害反応の対策	日本臨床腫瘍学会	新臨床腫瘍学	南江堂	東京	2006	716-723
木澤義之	ホスピス・緩和ケア 専従医のための自 己学習プログラム	木澤義之、ホスピス 緩和ケア専従医のた めの自己学習プログ ラム編集委員会	ホスピス・緩和ケア専 従医のための自己 学習プログラム	財団法人 日本ホス ピス緩和 ケア研究 振興財団	大阪	2006	1-263